

浄土宗
摂取山
念佛寺
報

撮取

第 12 号

四月十一日には見ごろになっていました。サクラ祭りのオープニングも行われた後で、多くの人も訪れていました。

さくら、サクラ、桜

がいせん桜、しだれ桜、芝桜

今年のサクラは、早く咲きました。

咲くのも開きはじめてなと思つた次の日には、六、七分咲きといった感じを受けています。



がいせん桜



かなさか、仏教の無常の教えと結びついていたのでしよう。

メルヘンの里新庄村では、「がいせん桜」の

後には町裏堤防沿いの「しだれ桜」、そしてそのそばの「芝桜」と楽しめます。

後鳥羽公園の桜は一週間遅れで楽しめるという、長く桜が楽

しめる村でもあるようです。

言葉

願以此功德 平等施一切

同発菩提心 往生安楽国

お寺やお家でお唱えするお勤めを、序文、本文、結文とすると、本文の最後の部分で、この言葉が出てきます。

「願わくは、念仏を唱えた功德をすべての人々に同じように分かち合い、同じように極楽世界に往生したいと願う心をおこし、共に往生したいものである。」

自分ひとりだけが往生したいと願うだけでなく、一人でも多くの人と共に往生したいと願い、己の膳行の功德と随喜の功德とを振り向ける。これが「往相回向門」。また極楽浄土に往生できれば六神通(神足通・天眼通・天耳通・他心通・宿命通)過去

世のすべての事柄を知る能力)・漏尽通(煩惱を絶つて再び迷いの世に生まれない能力)を得て人々を自在に教化できる力を得て、迷いの世界で苦惱を続けている人々を極楽浄土の世界に往生させたいと願う。これが「還相回向」。

《編集後記》

今回は、がいせん桜と枝垂桜の写真を入れました。最後の写真は、ヤドリギの花です。ヤドリギに花が咲くということを知り、今回はじめて写すことができました。花の中にはこんなに目立たない咲き方もあるのだと、改めて感じました。

